禅籍抄物研究（六）

――駒澤大学図書館蔵『大圓禪師夜話』について

飯塚大展

かつて、東京大学文学部国語研究室所蔵の禅籍抄物の一つである『大圓禪師垂示夜話』を翻刻紹介したことがある。本稿では、『大圓禪師垂示夜話』と共にその一部を成すと思われる駒澤大学図書館蔵『大圓禪師夜話』を紹介したいと思う。

前稿において、東京大学国語研究室所蔵『大圓禪師垂示夜話』（以下東大国語『夜話』）の書誌について略述したものを再度ここに掲げれば以下の通りである。

一、冊　数　1冊
一、料　紙　楮紙
一、大きさ　縦23・5糎、横14・5糎
一、装　釘　袋綴
一、標　題　打ち付け「大圓禪師垂示夜話」
一、枚　数　41丁（表紙1丁）
一、行字数　毎半葉・11行、1行・23～30字前後
一、刊　写　写本、
一、書写年　不明
一、筆　者　清菴宗胃
一、識語等　「大圓禪師垂示夜話永正年中清菴意藏主時聞書也／不容他見／卜雲老拙／主宗詮」「右正宗禅師墨痕／享保二丁酉年七月晦日／紹云證焉」
一、請求番号　22A-103、文3973

さて、書名に見える「大圓禪師」とは、大徳寺七十二世東溪宗牧（一四五四～一五一七、永正二年〈一五〇五〉大徳寺入寺）を指して言う。宗牧は初め養叟宗頤の法嗣春浦宗熙に参ずること十年に及び、春浦はその遷化に臨んで宗牧の後事を弟子の實傳宗真に託している。後に宗牧は實傳の法を嗣ぎ、東溪の号――既に春浦により鎮牛の号を得ていたのだが――を得ている。また永正九年（一五一二）には後

柏原院より「佛慧大圓禪師」の号を贈られている。大徳寺に龍源院を創建し、外に大雲寺（近江国高島郡）や中興寺（同国蒲生郡）、正法寺（伊勢国鈴鹿山）等を開創している。また聞書の抄者は、表紙並びに巻末の記事に拠れば、後の大徳寺第九十三世清菴宗胃（一四八四～一五六二、正受院開祖、廣徳正宗禅師）とする。巻末に本書の筆写者が清菴宗胃であるとの極を書いているのは、大徳寺第二百八十九世亭山紹云（一六六五～一七四三）である。

東溪には、『佛慧大圓禪師語録』三巻があり、眞珠庵蔵の三巻三冊本が『大徳寺禅語録集成』第四巻に影印されている。その解題の中で平野宗浄氏は、以下のように記されている。

『大圓禪師語録』三冊。『東溪宗牧禪師語録』略して『東溪語録』ともいう。今回の影印には眞珠庵蔵の写本を使用した。この語録の特色は第一巻から第二巻にかけての「室中語要」と「入室勘辨」とにある。この「室中語要」とは、その名を『雲門広録』から採ったと思われるが、内容も『雲門広録』を意識しており、復古の意気が感じられる。そして題材も唐代禅語録のみならず、大徳寺世代の祖師達の語を多く用い、他の語録に見られぬ貴重な資料ともなっている。「入室勘辨」というのは東溪とその弟子達との問答を記録したもので、こういう「勘辨」というのは、徹翁以後これが唯一のものであろう。さすがに大徳寺南派の派祖の語録だけあって、その独自性は他の追随を許さない。

平野氏が『大圓禪師語録』の特色とされた「室中語要（垂示・夜話）」について考えてみたい。東溪以前の養叟宗頤・春浦宗熙・實傳等の語録には、垂示はその編纂の際に除外されているが、東溪宗牧の語録には、垂示の部立て「室中語要」が存在する。そこには、華叟宗曇・養叟・春浦・実伝・東海宗朝らの垂示・下語が取り上げられており、垂示は節季や祖師の忌日、俗人の供養（斎食）をはじめ、様々な機会に行われていたことがわかる。また師家がその際用いた公案に対する代語、下語が、後にその弟子や参学者によって再び取り上げられ、再吟味されることもあった。

養叟宗頤の語録は、その大部分が散佚しており、全体を現時点では見ることができない。『大照禪師語録』（養叟の語録）の奥書には

○大照禪師者、天澤的流、而龍峯中興之活祖也。室中語要亦夥矣。吁、世乱道微兵燹不熄。埼失厥本録、不能聽全機。今幸點檢殘纔得一二、以為語録。庶幾千歳于雲補其缺略而已。

于時元禄乙卯季秋日、焚香拜書。

劣孫　宗　玩　印　印

とあり、養叟にも現存していないが多くの「室中語要」が存在し、垂示が頻々として行われていたことがわかる。このことは後掲の『自戒集』の記事とも符合する。

康正元年ノ秋ノ末、養叟、泉ノ堺ニ、新菴ヲ建立ス。菴号ヲ、陽

春菴ト云。異名ヲ、養叟ノ入室屋ト云。同十二月ニ堺ヘ下向アリテ、安座・點眼、菴ヒラキニ、五種行ヲ行フ。
一ニハ入室、一ニハ垂示・着語、一ニハ臨濟録ノ談義、一ニハ参禅、一ニハ人ニ得法ヲオシウ。
ソノヘンノ狂客、無住榜ヲツカマツリ候。ソノ無柱榜ニ云。（下略）

今回、『大圓禪師語録』巻二（『大徳寺禅語録集成』第四巻所収）の「垂示　拾遺」との対応関係を【資料（一）】で示した。今回『大圓禪師語録』（以下『大圓語録』）所収「垂示」の各項に整理番号を付し、前稿において紹介した東大国語『夜話』に付した整理番号との対応関係を『大圓語録』「垂示」各項の後に（→東大国語『夜話』（1））として記載した。

東京大学文学部国語研究室所蔵『大圓禪師垂示夜話』の書名であるのに対して、駒澤大学図書館蔵本の書名が「垂示」の二字を欠く理由は、改表紙の題箋に「龍源夜話」と併せ考えると、両者の内容には質的違いがあることによるのだろうか。駒澤大学『夜話』は、「夜話」の文字通り、雑談の要素がより強いものであると言える。

(39)

永正三年七月彗星出、古老之人曰、乱中ニ出也。是皆兵乱ノ兆也。
師曰、何トテモ無事ヲ云也。天生地儀ノ理ハ、佛祖不識也。彗星出ヌ折節、乱カ興リ合タマテヨ。何ノ道理モ無事ヲ云ソ。

現実の不安な状況を天の道理によらないとする禅者としての矜恃は興味深い。また、(36)のように荒唐無稽な話も多い。同時代の林下他派に対する眼差しも垣間見ることができる。林下曹洞宗に関するものとしては、(26)(76)などがある。(26)に見える「太玄」「其弟子穴堂」とは、峨山韶碩の弟子（五哲の一人に数えられる）太源宗真（?～一三七一）とその法嗣傑堂能勝（一三五五～一四二七）に比定し得る。(76)は天真自性派に属する宅良門徒の派祖希明清了（?～一四四五）に対する春浦宗熙のコメントを載せている

さて、最近堀川貴司氏は、江隠宗顯自筆の「垂示」（堀川氏所蔵、以下堀川所蔵本）を紹介翻刻され、本書の性格を以下のように定義された。

本資料（編者架蔵）は、大徳寺派において、住持が折に触れて山内の僧侶に対して行う垂示・代語あるいは夜話といった、公案に基づいた問答あるいは説話的な説法の類を書き留めたものである。

これまで江隠の垂示として知られていたのは、『江隠藁』（『大徳寺禅語録集成』所収）所載の四つのものであった。「笑嶺和尚垂示一問」として、以下のように見える。

（ア）来正月二日丁、大通居士月忌之辰、預於今月斯日、開浴以伸供養、因師垂示曰、浴後無垢時如何。代曰、拂跡々生。僧云、畢竟如何。代曰、鑼湯無冷處。

（イ）師垂示曰、来正月初六日、廼仙岳宗彭禅定門三回忌之辰也。其孝子、預於斯日修観音懺摩之場、以伸供養、即今禅定門、

現帝釈身着甲冑、於桂河作与百万修羅相戰勢。山僧亦得観音妙智力、深説与伊則、刀尋段々壊、火坑変成池、修羅亦藕絲竅裡藏身去。諸人、於此下一語看。代曰、作賊人心虚。師曰、是觀音賊山僧賊。僧云、再犯不容。一喝。師曰、喝个什麽。僧連喝再喝。師曰、正好供養月、自其後皆奇夜。

（ウ）先師垂示曰、直透萬重関、不住青霄内時意旨如何。代、月白風清。

（エ）師垂示曰、普通國師現大人相、普通十方来、山僧倒履曲躬叉手出迎、諸人還看麽。代國師下一轉語来、一僧振威一喝。師云、山僧清機猶歴掌、礼拜三展。僧掩目出去。師云、這箇師僧還堪持論。随後便掌。

これらの内三つが仏事法要に因んでの垂示であり、半ば公の場におけるものであるのに対して、堀川所蔵本は、夜話としての性格をより強く有するものである。管見によれば、既に堀川氏が指摘されていることだが、『大徳寺夜話』と共通する話柄は、雑談あるいは口伝として伝承されてきたもののように思われる。

『江隠藁』について付言すれば、本書の一部には仮名交りの注釈が見られる。一例を挙げれば以下の通りである。

洞山過水

一派何時分逆流、洞山水鏡影相浮。我逢渠處渠非我、笑彼失頭還得頭。

洞山問雲岩和尚百年後、忽有人問、還得師邈得師真不、如何祇對。雲巖曰、但向伊道即遮箇是。師良久。雲岩曰、承當遮个事、大須審細。師猶渉疑。後因過水覩影、大悟前旨。因有一偈曰、切忌從他覓、迢々与我疎。我今獨自往、處々得逢渠。々今正是我、々今不是渠。應須恁麽會、方得契如々。　失頭得頭ハ、演若達多カ故事也。夢感曰、一朝ニ鏡ニ向鏡ヲ倒（サカサマ）ニ持テ、ワルウ見タ程ニ、頭ガ見ヘナンタレハ、鬼神ノ所為テ、頭ヲ失シタト云テ、物ニ狂テ、頭ヲ處々ニ覓メタ。或人、鏡ヲスグニモタセテ見セタレハ、頭ガ見ヘタ處テ、頭ヲ得タト云テ悦ウダ也。迷タ事也。根本迷悟モ得失モナキヲ、失セヌ頭ヲ失セタト云テ求メ、得ヌ頭ヲ得タト云テ悦タ、皆迷也。

次に、堀川氏は又以下のような問題提起をなされている

（上略）『自戒集』のごとき狂詩あるいはカナ交じり文による露悪・偽悪的な表現が、孤立的なものなのか、それともある程度他の言説と地続きのものなのか、すなわち表現の共通性の有無、という点にも興味がある。その点、27や30、また74のような存在は、共通性を強く示唆するものと言えよう。

堀川氏が、江隠の「垂示」の中で注目されたのは、以下のような記事である。

27或人間平等曰、如何是仏法大意。等答曰、平等カ真裸八寸カリタカシ。

先師下語曰、截断紅塵水一渓。弁曰、仏法トハ殊勝ナコトカ有ヤ

ウニ思テ問タホトニ、根本ノ上ニ什麼仏法ト云コト有ラウスト打テノケテ答タ也。

30世の中はよきもあしきもむまのまらたてすりこきに秋風そ吹

先師ノ下語曰、截断紅塵水一渓、世の中はよきもあしきもむまのまらハ、截断紅塵也。たてすりこきに秋風そ吹カ水一渓也。ナンノ道理もナイ也。

74月庵会下有晩出家。正恁麼時如何ト、フヲ聞慣ウテ問月庵、正恁麼時如何。庵云、煮タモヨシ、焼タモ好。又問、如摩訶衍法。庵云、秦時硼轢鑽。是ハ古人ノ答話ノ儘也。会下僧十人一度ニ喝。庵云、ホウロク千ニ槌一云々。

（＊番号は堀川氏記載の整理番号に拠る）

74の「恁麼」と「芋」とを掛けた駄洒落問答は拠措き、その露悪的表現の場が、何処にあったのかということは個人的には興味がある。一つは、垂示夜話の史料は、洞門抄物の「代語」と同じ性格を有し、それは説法上堂に代わるものとして公的な色彩を有するものであった。また垂示夜話は、語録抄や密参録などにも取り上げられているように、語録の講義や、公案に対する解釈、特に下語・弁といった師資間の商量の中で成立したのではないかと考える。しかし同時に、叢林生活の合間にふと交わした先師に関する雑談が肩肘張らぬ逸話として口伝として伝えられたとも考えられるのではないか。特に後者は「夜話」として位置づけられたと思われる。更に叢林における哄笑広言は、禅僧の個性として認識されていたと言えば、言い過ぎであろうか。

『自戒集』に見られるような露悪的表現が、一休宗純というある種異質な禅僧の個性に基づく孤立的な表現なのかという問題が提起されているように思われる。

駒澤大學『夜話』には、一休宗純について言及する一条がある。

（21）

華叟和尚ハ、遂平僧テ過サシマツタソ。堅田之正通庵ヲ授老ソ。養叟、一休ハ正通庵テノ會下ニ有タソ。華叟遷化後一休暫在養叟會下ソ。未休明テ出テ、立一派ソ。大用テ打米時一休ハ衣物ヲ腰カラウテ打タソ。後ニハ衣物カタレサカツテ、大ナルマラヲ打振テ、タツタ打テ々ト云テ打タソ。メイヨノスマラ也。春浦和尚常ニ咲テ話ソ。

これによれば、一休宗純と養叟宗頤とは、共に堅田の正通庵に住した華叟宗曇の会下にあった。華叟示寂後は、一休は養叟会下にあったが、まだ大悟了畢する以前に袂を分かって一派を立てた。一休がまだ養叟会下に在った時のこと、ある日大徳寺内の塔頭である大用庵において打ち米をして、法衣を絡げて打っていたが、その内着崩れて、大きな魔羅（陰茎）を打ち振るって「たった打て打て」と言って打った。養叟の高弟の春浦宗熙は、いつも笑い話にこの

出来事を取り上げる、と言う。この一事をもって断ずることは出来ないが、「垂示」には『自戒集』と共通する表現の形式があると思われる。

さて、林下大徳寺派における一休評価といった禅宗史的興味から言えば、一休が未悟であるとするのは、その主流となる養叟派下の共通の認識であったと思われる。『大徳寺夜話』にも

一、一休ハ、古則八十則ナラテハ、参セヌト云レタ、碧岩三十則参タ、其支證ハ、人ニ碧岩三十則書テ出タ、此内ヲ問ト也。養叟ハ、一休ノ風顛漢ヲハ不嫌、師家ニ不問古則推着テ、心得頼ヲスルヲ嫌タ也。

とあり、養叟は一休の入室参禅の不完全性と、悟ってもいないのに師家ぶったふるまいを嫌っているのであり、一休の風狂を嫌っているのではないとする。

ほかに黄梅院所蔵「垂示」（『大徳寺禅語録集成』第四巻所収）にも一休の記事が見える。

僧問一休、市中還有隠麽。休云、有。僧云、如何是市中隠。休云、何似生。後大用聞、大不肯。師代云、擒住、速道々々。定此僧擬議。便托開更参卅年イワン也。

一休の伝承については、密参録の中にも見出される。駒澤大学図書館所蔵『百則密参録』には、以下のように見える

（ア）△蛾眉中峰民和尚、罷講而至。圓悟夜参ニ挙ス、僧問岩頭、古帆未掛時如何。頭云、後園驢喫草。民茫然不知落処。告悟、々曰、機問我。民乃問、古帆未掛時如何。悟曰、庭前栢樹子。民遂大徹々々、大恵武庫。

○小魚呑大魚。

一休ノジヤレ下吾ニ云、男子生女子。又、山伽羅胡桃ヲ舞ワス。

弁、胡桃ノ、クル〳〵舞処ヲ、輪廻顛倒、又ハ、逆ノ方ニ用タ。

○後園驢喫草。

一休ノ下吾云、猿盗栗。

弁、是色相ノ順也。

（イ）先師物語、見識ノキレヌ者ニハ、加沙中（袈裟）鞋ヲ裹テモ見セフズ。昔シ、王ノ弟アリ、一休ノ會下ヘ走リテ、沙弥ヲ歴ント被仰タ。一休、華叟ヘ参上ラル、時、此沙弥ニ足ヲ洗セラレタ。此時、加沙ヲ以テ、足ヲ拭シラレタト、昔ヨリ語リ傳ヘタ。

実はこの見方は、林下曹洞宗の禅籍抄物（洞門抄物）の中にも見出せる。『巨海代鈔』（承応癸酉刊、架蔵本）には、以下のように見える。

養叟ハ、大徳寺ノ先師、一休ノ為ニハ師兄（スヒン）デゴザ在ツタガ、宗純アマリニ生（ナ）マ得道ニ犯（ヨカ）サレテ、テガラメクト云テ、狂歌ヲヨマレタ、

瀬ハ鳴テ深キ渕ニハ音（ヲト）モナシ同ジ流レノ溪（タニ）川ノ水　（上巻）

洞門抄物においても、一休の狂歌の引用は比較的よく見ら

れる。ちなみに、『扶桑再吟』（架蔵本）には、一休の狂歌が引用されている。

心ハ、是ハ先ヅ一休宗純ノ白拍子ニ嫁嫂（懸想ノ宛字カ）セント行カル、処ヲ、ミナ川（蜷川カ）ノ新衛門拶云、大善知識爲シテカ甚麽ト入ル無間ニ。

純答云、

地水ハ月ハ夜ナ〳〵通ヘ共光リモヌレズ水ニ跡トナシ

ト對セラレタト云ガ、指シテ其レニ用所ハナイ、澄ミ切ツタ池水ニ月光朗々ト照ラシタガ、地水モ照ラサレタト知ラズ、水ニ跡トナイ事タゾ。処コソ不識上ヨ。（下略）

今後私は、堀川氏の問題提起を真摯に受け止めるべく、怠ってきた『自戒集』の読解を進め、併せて大徳寺派系の禅籍抄物の中でどのように「垂示」、更には「勘弁」と呼称される史料を位置づけうるのかという課題を考察して行きたいと思う。

【註】

（1）拙　稿「禅籍抄物研究（二）―『大圓禪師垂示夜話』を中心として―」（『駒澤大學佛教學部研究紀要』第六二號、二〇〇四・三）

（2）『大徳寺禅語録集成』第三巻、解題（法藏館、一九八九・三）

（3）拙　稿「『大徳寺夜話』について――養叟会下の記述を中心として――」（『宗学研究』第三四号、一九九二・三）

同　右「龍谷大学図書館蔵『大徳寺夜話』をめぐって（一）（二）（三）（四）」（『駒澤大学禪研究所年報』第一〇號、一九九九・三、第一一号、二〇〇〇・三、第十二号、二〇〇一・三、第一四号、二〇〇三・一二）

（4）堀川貴司「垂示（江隠宗顕）解題と翻刻」（『花園大学国際禅学研究所』第四号、二〇〇九・三）

【史料（一）『大圓禪師語録』「室中語要下　拾遺」】

（1）

因雪垂示擧、古德因僧辭去。德云、四山雪満、向什麼處去。僧下百轉千轉語、德不肯。僧以告傍僧。々々云、何不道、山高豈礙白雲飛。僧以此語詣德。德因之。師云、古人底且置。四山雪滿、向什麼處去、如何道得是。一僧云、不入其保社。師云、爲什麼不入。僧云、佛祖不識。師云、擔片板漢。僧云、悔適來不知鉤頭意。拂袖去。一僧云、掉臂去。師遂打云、腦後一頓未免在。僧掩耳出去。一僧云、這老賊。師云、奈老僧何。僧云、姻霞不遮梅香。師云、已遮了。僧一喝、拂袖去。一僧云、舌頭甚冷。師云、在阿誰邊。僧云、獅子咬人不露牙故。師云、更道々々。僧云、不和尚、掀倒禪床拂袖去。一僧云、某甲寒毛卓竪。師云、侍者黙平胃散一鑒來、與此僧喫。僧云、和尚一拶、汗浹背。師呵々大咲。僧便禮拜。師代云、江南江北。僧云、老和尚脚痕不點地那。師云、老僧憊惰、忘前失後。僧云、嗄。師便打。

（→東大国語『夜話』（1））

（2）

因雪垂示云、雪覆千山、孤峰爲什麼不白。代云、借逕經過。

（→東大国語『夜話』（2））

（3）

垂示云、不語不黙、總是總不是、速道々々。代云、和尚借前人口、爲什麼。師云、爭奈拈得鼻孔失却口。僧云、和尚亦不少。師便打。僧禮拜。

（→東大国語『夜話』（3））

（4）

垂示云、如何是火用。代云、燒竹燒松。又云、如何是水用。代云、蘇枯蘇渴。又云、畢竟如何。代云、前三々後三々。

（→東大国語『夜話』（4））

（5）

師問衆、盡大地劔刃上、何處爲路頭。僧云、劔刃是路頭。師云、不免傷鋒犯手。僧一喝、拂袖去。

（→東大国語『夜話』（6））

（6）

僧弘問、喚胡餅作大圓鏡時如何。師云、鑑。僧云、鑑這什麼。師云、再犯不容。

（→東大国語『夜話』（7））

（7）

因轉大般若、垂示云、如道一切智々清淨、衲僧門下第幾機。代云、第八機。僧云、意旨如何。師云、荊棘林中宣妙義、蒺藜園裏放毫光。

（→東大国語『夜話』（9）（22））

（8）

立春垂示云、冬向何處去、春從何處來。代云、看々東去西來。

僧云、意旨如何。師云、日月易流。

（→東大国語『夜話』（10））

（9）

擧、父母所生眼、悉見三千界、下語來。代云、天無四壁、地絶八維。

（→東大国語『夜話』（12））

（10）

因喫□□次、問云、喫□□舌頭甚苦、諸人受用作麽生。代云、和尚亦不少。師云、老僧有什麽過。僧云、再犯不容。師又云、五味下語來。代云、月白風清。師云、意旨如何。僧云、佛祖不識。

（→東大国語『夜話』（13））

（11）

垂示云、開作家爐鞴、煅煉佛祖底、不審、具什麽眼目。代僧云、和尚可知。師云、你何不道。代、僧作嘘々聲。師便打。

（→東大国語『夜話』（15））

（12）

垂示云、春天欲雨時如何。代云、一槌兩當。

（→東大国語『夜話』（16））

（13）

垂示云、耳如聾、口如唖、意旨如何。代云、一句帶兩意。又云、一句該通。

（→東大国語『夜話』（17））

（14）

擧、雲光法師坦率自恰、不奉戒律。志公謂云、出家何爲。光云、吾不齋而齋、食而非食。後招報作牛、拽車於泥中。志公召曰、雲光。牛擧頭。公曰、何不言拽而非拽。牛墮涙號跳而逝。習聽録。師云、昔年雲光牛、如何道得免得此過。代云、謹謝和尚照顧。

（→東大国語『夜話』（19））

（15）

師問僧、佛性試道將來看。代僧云、吽々。師云、是爲是麽。僧云、爰不打招人笑。與一掌。

（→東大国語『夜話』（20））

（16）

師問僧、燈籠跳入露柱時如何。代僧云、露蹤跡來看。師云、既露了也。僧呵々大笑。師云、消得恁麽々々。

（→東大国語『夜話』（21））

（17）

垂示云、黄鶯奏琴、未審、挑何人。代云、風從花裏過來香。

（→東大国語『夜話』（23））

（18）

擧古德云、法身病色身不安、色身病法身不安。師云、如何醫得。代云、這老賊。僧云、落處作麽生。師云、萬里一條鐵。

（19）　（→東大国語『夜話』（24））

擧、王太傅問北院云、古人道普賢色身、徧行三昧佛、佛法爲什麽不到北倶盧洲。院云、祇爲徧行所以不到。雲門云、如法置一問來。師云、試下語來看。代云、勘破了也。又云、因風吹火。

（20）　（→東大国語『夜話』（25））

擧、古人道、却物爲上、逐物爲下。師云、如何是逐物底。代云、入色界被色惑、入聲界被聲惑。又云、如何是却物底。代云、入色界不被色惑、入聲界不被聲惑。僧云、畢竟如何。師云、萬里一條鐵。又畢竟如何。代云、錯々。

（21）　（→東大国語『夜話』（29））

垂示云、睡什麽處來。代僧云、和尚鼻孔裏來。師云、你是什麽心行。僧云、有権有實。便禮拜。

（22）　（→東大国語『夜話』（32））

垂示云、我有一問、向文字外道將來。代云、柳緑花紅。

（23）　（→東大国語『夜話』（35））

垂示云、釋迦老子二千年已前、於雙林樹間唱滅。即今在什麽處説法。代云、即今向火焰裏説法。僧云、如何是説底法。師指爐中云、看々。

（24）　（→東大国語『夜話』（36））

結夏垂示云、諸方長坐不臥、我這裡閑眠高臥、是同是別。一僧云、萬里一條鐵。一僧云、一槌兩當。一僧云、閑事。一僧云、一彩兩賽。一僧云、桃花紅李花白。一僧云、截斷紅塵水一溪。一僧云、斬釘截鐵。一僧云、前三々後三々。師打云、網得多少人、不許東行西行。代云、和尚可知。又云、你何不道。僧云、嗄。

（25）　（→東大国語『夜話』（37））

垂示云、什麽物尤是樂。代云、貧處是樂。僧云、如何是貧處。師云、上無攀仰、下絶己躬。師又云、什麽物尤是苦。代云、饒豐是苦。僧云、如何是饒豐。師云、百千萬粒自這一粒生。

（26）　（→東大国語『夜話』（38））

因猫兒喫鼠子、垂示云、猫兒喫鼠子時如何。代云、牙歯一具骨。復云、鼠子喫猫兒時如何。代云、果然現大人相。僧云、如何會去。師云、雖然有爪牙、還輸却鼠子。

（27）　（→東大国語『夜話』（39））

垂示云、如何是佛本意。代云、欲道牙歯寒。復云、如何是佛本意。代云、這老賊。　復云、大覺寺殿臨被殺時云、御所迢（タヤキ）。〈迢一作二親嫁一罵詞也。卜云々。〉於此下語來。代云、上無攀仰、下絶己躬。〈大覺寺殿者、東山殿之弟也。謀反下薩州。東山殿命志摩津奥州誅之。奥州自斬頸。其時大覺寺殿向京方乃云、御所迢。遂被斬頸云々〉。

（→東大国語『夜話』（40））

（28）

垂示云、蛇咬蝦蟆時如何。代云、舌頭一臠肉。又云、不咬時如何。代云、口唇兩片皮。　復云、蚊咬鐵牛時如何。代云、這老賊。又云、不咬時如何。代云、兩彩一賽。

（→東大国語『夜話』（41））

（29）

擧、徹翁和尚垂示云、苦樂逆順時如何。徹翁代云、一苦一樂、一逆一順。僧云、意旨如何。徹翁云、苦無苦道理、樂無樂道理、順無順道理、逆無逆道理。僧問云、畢竟如何會去。師云、月白風清。

（→東大国語『夜話』（44））

（30）

垂示云、柳緑花紅意旨如何。代云、柳緑花紅。

（→東大国語『夜話』（45））

（31）

垂示云、三藏主向劔刃上打筋斗、還現大人相、諸人如何相見。代云、一箭兩垛。僧云、意旨如何。師云、看取前頭話。

（→東大国語『夜話』（46））

（32）

因有俗漢設茶飯供養大衆、師垂示云、炊無米飯、接不求人置不論、即今鉢裏有飯、桶裡有水、諸衲還喫却麽。代云、謹謝指示。僧云、如何是指示底。師振威一喝。

（→東大国語『夜話』（47））

（33）

師打槌次、垂示云、一槌未下時如何。代云、鉢盂口向天。　復云、下一槌後如何。代云、長連床上、有粥有飯。師復云、不借一槌時如何。代云、萬里一條鐵。

（→東大国語『夜話』（48））

（34）

中秋垂示云、月出時如何。代云、明殺天上。復云、月未出時如何。代云、明殺人間。復云、出與未出時如何。代云、前三々後三々。

（→東大国語『夜話』（50））

（35）

佛涅槃垂示云、分身千百億、那箇身涅槃。僧云、借逕經過。師云、道々。僧云、再犯不容、拂袖去。

（→東大国語『夜話』（51））

（36）
又云、今日去テ佛何クニ往ヤラン。代云、柳緑花紅。
（→東大国語『夜話』（52））

（37）
或云、今日喫酒大醉。師問云、阿誰是醉。代云、佛祖不識。又云、我亦不知。又云、張公喫酒李公醉。
（→東大国語『夜話』（53））

（38）
垂示云、黄檗云、大唐國裏無禪師。黄檗底且置、這裏如何受用。代云、這老賊。
（→東大国語『夜話』（55））

（39）
垂示云、住山説法作什麼用。代云、以此深心奉塵刹、不是報恩之事麼。僧云、如何是報恩之事。師云、月白風清。
（→東大国語『夜話』（56））

（40）
元旦垂示云、元正啓祚萬物新、衲僧門下第幾機。代云、路從平處嶮。僧云、如何是嶮處。師云、黒花猫兒面門班。
（→東大国語『夜話』（58））

（41）
分歳垂示云、古德分歳、掇退果卓。山僧分歳、不掇退果卓、是同是別、洎爲同別會。
（→東大国語『夜話』（61））

（42）
垂示云、盡大地是沙門一隻眼、向什麼處向火。代云、處此間無闍梨、這裡無老僧。僧云、謹謝指示。
（→東大国語『夜話』（62））

（43）
師問云、佛法向上道將來。僧便喝。師云、好々借問、悪發爲什麼。僧禮拜。師便打。
（→東大国語『夜話』（63））

（44）
師又云、鐘聲聲。僧云、叶々。
（→東大国語『夜話』（64））

（45）
垂示云、大家聚首、談大唐談高麗、談底是何物。代云、山僧不會談。僧云、意旨如何。師云、鐘作鐘響、皷作皷鳴。
（→東大国語『夜話』（65））

（46）
垂示云、百丈云、汝開田、我説大義。山僧這裡無可説大義。代云、一有多種、二無兩般。僧云、意旨如何。師云、切。
（→東大国語『夜話』（66））

（47）
垂示云、世尊滅度五十二類悲泣、是什麼道理。代云、泣露

千般草、吟風一様松。又云、世尊向什麽處藏身去。代云、重疊關山路。

（→東大国語『夜話』（69））

（48）

擧、寒山詩云、我心似秋月、碧潭清皎潔、無物堪比倫、教我如何説。師云、試下語來。代云、風吹柳絮毛毬走、雨打梨花蛺蝶飛。

（→東大国語『夜話』（72））

（49）

垂示云、維摩居士、方丈内、容三萬二千床、此理如何。代云、何止三萬二千。僧云、意旨如何。師云、一粒粟中藏世界、半舛鐺内煮山川。

（→東大国語『夜話』（73））

（50）

師問云、灰頭土面時如何。代僧云、與麽學人、粉骨碎身去。

（→東大国語『夜話』（74））

（51）

師復云、爲賊過梯時如何。代云、若不作得主人、不敢食言。

（→東大国語『夜話』（76））

（52）

因齋次、垂示云、逢茶喫茶、逢飯喫飯、衲僧別有生涯、作麽生是別底生涯、諸衲試下語來。代云、與麽則學人容易不喫茶飯。師云、有口不喫歟、無口不喫歟。僧云、來日喫一頓。師云、説什麽來日。僧一喝、拂袖去。師云、今日被驢子撲。

（→東大国語『夜話』（77））

（53）

擧、雲門云、光不透有兩般病。師着語云、馳書不到家。又下語云、萬里一條鐵。復云、一切不明眼芦有物。師着語云、迷己認影。

（→東大国語『夜話』（78））

（54）

師云、一念萬年、下語來。代云、風吹柳絮毛毬走。復云、萬年一念、下語來。代云、雨打梨花蛺蝶飛。

（→東大国語『夜話』（79））

（55）

垂示云、最初句、末後句、一句道將來。代僧便喝。師云、喝這什麽。僧云、和尚曲心不少故。師云、奈老僧何。僧禮拜。師便打。

（→東大国語『夜話』（80））

（56）

垂示云、氷自水生、氷還成水時如何。代云、萬里一條鐵。

（→東大国語『夜話』（81））

（57）

垂示云、靈雲見桃花悟道、諸人見桃花不悟道、是同是別。代云、

耳朶兩片皮。

（→東大国語『夜話』（82））

（58）

因見接樹次、師云、接樹下語來。代云、殺人刀活人劔。

（→東大国語『夜話』（91））

（59）

垂示云、黒漆屏風題月蝕詩、明什麼邊事。代云、借逕經過。

（→東大国語『夜話』（92））

（60）

因看月次、師云、月蹔。僧不契。代云、一槌兩當。

（→東大国語『夜話』（93））

（61）

擧、古人云、打頭不逢作家、老成骨董、如何是骨董。代云、鑊湯無冷處。

（→東大国語『夜話』（94））

（62）

結夏垂示云、衲僧家、有不墮如來禁網底手脚、諸人試道將來。代云、我常於此切。僧云、如何是切底。師振威一喝。

（→東大国語『夜話』（95））

（63）

垂示云、月明如晝、夜行人向什麼處藏身去。僧呵々大咲。師云、咲這什麼。僧云、林際未是白拈賊。師云、今日失利。

（→東大国語『夜話』（96））

（64）

師因手握雀兒來、問諸衲云、殺耶活耶。代云、非和尚與一拳。

（→東大国語『夜話』（98））

（65）

有一俗漢設齋、師垂示云、古人云、三箇禿不如一箇盧、既是三箇僧、爲什麼不如一箇俗漢、試下語來。代云、三德六味、施佛及僧故。僧云、落處作麼生。師云、兩彩一賽。

（→東大国語『夜話』（99））

（66）

因燈滅、師云、暗中下語來。代云、瞎。

（→東大国語『夜話』（100））

（67）

垂示云、雀兒咬着狗子時如何。代云、將謂苦衆生、更有衆生苦。僧云、落處作麼生。師云、清風明月。

（→東大国語『夜話』（101））

（68）

垂示云、富嫌千口少、貧恨一身多、如何是富。代云、牙歯一具骨。復云、如何是貧。代云、兩賽一彩。又云、君子愛財、取之有道。

（→東大国語『夜話』（102））

（69）

垂示云、長蛇偃月、未見輸贏時如何。代云、萬里一條鐵。
（→東大国語『夜話』（103））

（70）
端午垂示云、善財採一枝艸、度與文珠。文殊云、此藥亦能殺人、亦能活人、意旨如何。代云、弄泥團漢有什麼限。僧便喝。師亦喝。僧禮拜。師便打。
（→東大国語『夜話』（104））

（71）
垂示云、夜深更靜、燈花落盡時、如何分緇素。代云、荊棘林中、一條古路。
（→東大国語『夜話』（105））

（72）
見月次、復云、月蹔。代云、劈頭劈面。
（→東大国語『夜話』（106））

（73）
垂示云、於戰場可被斬頭時、如何受用。代云、好箇時節。
（→東大国語『夜話』（108））

（74）
垂示云、逢飯喫飯、逢茶喫茶時如何。代云、逢飯不喫飯、逢茶不喫茶。僧云、意旨如何。師云、萬里一條鐵。
（→東大国語『夜話』（109））

（75）
初祖忌垂示云、達磨不來東土、二祖不往西天、爲什麼不往西天。代云、達磨不來東土故。僧云、意旨如何。師云、普。
（→東大国語『夜話』（110））

（76）
垂示云、初寒纔來、廊捲風葉、正當恁麼時如何。代云、水從竹邊流出冷。
（→東大国語『夜話』（112））

（77）
又云、深夜一爐火、渾家身上衣。代云、不入其保社。僧云、爲什麼不入。師云、此間無你、這裡無老僧。
（→東大国語『夜話』（114））

（78）
又云、兩寺鐘一時響、何親何疎。代云、洎分親疎。
（→東大国語『夜話』（115））

（79）
垂示云、三德六味、施佛及僧、意旨如何。代云、不入其保社。僧云、爲什麼不入。師云、老僧非佛非僧故。僧云、老々大々爲這箇語話。師云、老僧被你勘破了。
（→東大国語『夜話』（116））

（80）
垂示云、寒霜增威、諸人如何近傍。代僧云、和尚亦不少。師云、你作野狐精見解那。僧云、再犯不容、拂袖去。

（81）　（→東大国語『夜話』（118））

因齋次、垂示云、爲狸奴白牯、念摩訶般若波羅蜜多、意旨如何。代云、正好供養。

（→東大国語『夜話』（119））

（82）

復云、昔年甘贄、今日奈佐、如何□（分カ）緇素。代云、網得多少。僧云、和尚意旨作麼生。師云、昔年甘贄、今日奈佐。〈蓋此時奈佐氏設齋故云。〉

（→東大国語『夜話』（120））

（83）

垂示云、如何是火用。代云、寒者得之熱。師云、如何是水用。代云、熱者得之冷。師云、如何是衲僧用。代云、龍吟雲起、虎嘯風生。

（→東大国語『夜話』（121））

（84）

垂示云、佛法試道將來。代僧云、非和尚、拔却舌頭。師云、老僧有什麼過。僧云、後箭射人深。師云、失利。

（→東大国語『夜話』（122））

（85）

垂示云、盡大地是佛身、向什麼處向火。代云、和尚一句道了。

（→東大国語『夜話』（123））

（86）

元旦垂示云、如何是新年頭佛法。代云、太平無象。僧云、無象時如何。師云、不容再問。

（→東大国語『夜話』（124））

（87）

垂示云、逢暖氣歌聲滑、與吾家是一般兩般。代云、曲彎々。僧云、意旨如何。師云、海晏河清。

（→東大国語『夜話』（125））

（88）

垂示云、春到百花開、此中有深意、諸人還會麼。一僧云、作賊人心虛。一僧云、謹謝和尚指示。一僧云、嗄。一僧云、和尚亦不少。一僧云、礙人荊棘從無根長。一僧云、閑事。一僧云、誠哉斯言。一僧一喝、拂袖去。一僧云、水從竹邊流出冷。一僧云、爛泥裏有棘。一僧云、句裡藏鋒。一僧云、截斷衆流。一僧云、緑水青山。一僧云、月白風清。一僧云、路從平處嶮。師代云、不侍和尚門下、爭會此意。師云、如何會、速道看。僧云、且緩々。師云、更道々々。僧云、莫道非々想天無人。師便休去。

（→東大国語『夜話』（126））

（89）

垂示擧、岩頭云、如水上胡蘆子相似、捺着便轉、不消絲毫氣力、意旨如何。代云、不審。僧禮拜了、叉手立。師云、且坐喫茶。

（→東大国語『夜話』（127））

（90）

師自攝州大嶋正受院歸一枝軒、垂示云、昨日於正受院喫粥喫飯、今日於一枝軒閑眠高臥、是同是別。代云、昨日是、今日是。僧云、意旨如何。師云、錯。僧云、謹謝指示。師云、三十年後。

（→東大国語『夜話』（128））

（91）

垂示云、三世諸佛眼裏無筋、歴代祖師皮下無血、咬定牙關、蹄跳不出、意旨如何。一僧云、響。一僧、鑊湯無冷處。一僧云、荊棘林中一條古路。一僧云、礙人荊棘從無根長。師云、一箇無道得底漢、蒼天々々。自代云、唯以一大事因縁故、出現於世。

（→東大国語『夜話』（129））

（92）

垂示云、夏雨濛々、如何是活達底人事。代云、晒眼皮草。僧云、意旨如何。師云、日出乾坤耀。

（→東大国語『夜話』（130））

（93）

垂示云、丈夫膝下有黄金、如何是膝下黄金。代、僧出衆、禮三拜立。師云、見箇什麽道理。僧云、和尚萬福、便歸衆。

（→東大国語『夜話』（131））

（94）

垂示云、雨打石頭、々々覺痛麽。代、僧竪起拳頭。師云、是什麽心行。僧一喝、拂袖去。

（→東大国語『夜話』（132））

（95）

垂示云、十年歸不得、失却來時路。代云、并汾絶信、獨處一方。

（→東大国語『夜話』（133））

（96）

垂示云、露柱裡藏身且置、燈籠上作舞時如何。代云、露柱燈籠笑呵々。僧云、笑這什麽。師云、笑人有短有長。僧云、落處作麽生。師云、吾亦不識。

（→東大国語『夜話』（134））

（97）

擧、欽山問德山云、天皇也恁麽道、龍潭也恁麽道、未審和尚作麽生道。師云、不墮古人軌轍、一句道將來。代云、這老賊。僧云、意旨如何。師云、上無攀仰、下絶己躬。

（→東大国語『夜話』（135））

（98）

師復云、德山答云、試擧天皇龍潭底來、於此下語來。代云、因風吹火。又云、不誤德山。

（→東大国語『夜話』（136））

（99）

垂示云、不思善不思惡、正當恁麽時、如何通一線路、試道將來。

代云、山僧愛嗔不愛喜。

（→東大国語『夜話』（137））

（100）

擧、文殊使善財採藥云、此藥能殺人能活人。師云、如何是藥。代云、三分甘七分苦。僧云、意旨如何。師云、龍吟雲起、虎嘯風生。

（→東大国語『夜話』（138））

（101）

垂示云、古人道、謗佛謗法、過橋斷橋、逢路塞路、此理如何。代云、胡蜂不戀舊時巢、猛將豈在家中死。

（→東大国語『夜話』（139））

（102）

垂示云、言々西來意。代云、諾。

（→東大国語『夜話』（140））

（103）

擧、經云、於三七日中、思惟如是事。諸法寂滅相、不可以言宣、我寧不説法、疾入於涅槃。師云、即今問諸衲、思惟這什麼得難説。代云、吾常於此切。僧云、如何是切處。師云、截斷紅塵水一溪。

（→東大国語『夜話』（142））

（104）

垂示云、吹無孔笛、彈没絃琴、諸人還聞麼。代云、聞。僧云、如何聞。師以手作敲空勢云、阿哪々。

（→東大国語『夜話』（143））

（105）

垂示云、汝等諸人、莫墮有無二見。代云、這老賊。僧云、意旨如何。師云、上無攀仰、下絶已躬。

（→東大国語『夜話』（145））

（106）

垂示云、意達信士別有行履、如何是別底行履。代云、衆角雖多一麟足。僧云、如何是一麟。師云、月白風清。

（→東大国語『夜話』（146））

（107）

又云、三段不同、収歸上科、如何是上科。代云、月白風清。

（→東大国語『夜話』（147））

（108）

師問云、諸人道底、如何色々。僧云、如何是和尚道底。師云、答在問處。

（→東大国語『夜話』（149））

（109）

師有時竪起拂子云、下語來。一僧云、突出難辨。師肯之。又師別云、佛祖不識。

（→東大国語『夜話』（150））

（110）

師因擲下扇子云、於此下語來。代云、一槌兩當。
（→東大国語『夜話』（151））

（111）
垂示云、當軒大坐、下語來。代云、萬里一條鐵。
（→東大国語『夜話』（152））

（112）
又云、日々逐樂時如何。代云、苦。師又云、意旨如何。僧云、截斷紅塵水一溪。
（→東大国語『夜話』（153））

（113）
垂示云、月色燈光相交、明什麼邊事。僧云、鑑。師云、鑑箇什麼。僧云、和尚可知。
（→東大国語『夜話』（154））

（114）
師復云、月落燈滅後如何。代云、依携似曲纔堪聽、又被風吹別調中。
（→東大国語『夜話』（155））

（115）
垂示云、作家相見、月白風清、如何會去。代云、曲直分明。僧云、如何是曲。師云、月白風清。僧云、如何是直。師云、這老賊。
（→東大国語『夜話』（156））

（116）
垂示云、如何是離佛。代云、上無攀仰。又云、如何是離衆生。代云、下絶己躬。又云、畢竟如何。代云、這内無畢竟。
（→東大国語『夜話』（160））

（117）
垂示云、聖箭離弦、無返回勢、試下語來看。代云。依俙越國、彷彿揚州。
（→東大国語『夜話』（161））

（118）
垂示云、刹那不殺生、入地獄如箭。代云、錯々。僧云、如何是殺生。師云、斬釘截鐵。
（→東大国語『夜話』（162））

（119）
垂示云、佛法向上、道將來。代、一喝拂袖去。
（→東大国語『夜話』（163））

（120）
垂示云、蝦蟆知死期如何知、下語來。代云、佛祖不識。
（→東大国語『夜話』（167））

（121）
垂示云、如何是老僧受用。代云、不干學人事。又云、如何是諸人受用。代云、不干和尚事。僧云、畢竟如何。師云、心徑苔生。又云、并汾絶信、獨處一方。
（→東大国語『夜話』（168））

(122)
垂示云、浮世穿鑿不相干、此理如何。代云、如眼不分聲、如耳不分色。僧云、意旨如何。師云、切。
（→東大国語『夜話』(169)）

(123)
擧、僧問古德云、古人將死時、或入火投水、或坐脱立亡、或叫云、牛頭馬頭來逼、未審、如何是和尚死訣。答云、待你死向你道。師云、平生心膽向人傾。
（→東大国語『夜話』(171)）

(124)
垂示云、三界無安、猶如火宅。代云、再來不直半文錢。
（→東大国語『夜話』(172)）

(125)
垂示云、教者依文解義、禪者依文解理、如何是義。代云、説頓説漸。如何是理。代云、因邪打正。如何是邪。代云、黄卷赤軸。如何是正。代云、月白風清。
（→東大国語『夜話』(173)）

(126)
垂示云、終日數十、不知二五。代云、向鬼窟裡作活計。
（→東大国語『夜話』(174)）

(127)
垂示云、築着磕時如何。代云、黄金爲城、白金爲壁。僧云、何人住處。師云、看々眞佛屋裡坐。
（→東大国語『夜話』(176)）

(128)
垂示云、敵如何退沿、下語來。代、一喝拂袖去。復云、如何是敵。代云、自悦自悔。

(129)
垂示云、一把柳絲収不得、和風搭在玉欄干、如何名摸。一僧云、無孔鐵鎚當面擲。一僧云、充塞六合。一僧云、填溝塞壑。一僧云、露。師打云、一隊擔板漢。便代云、依俙越國、彷彿揚州。僧云、意旨如何。師云、借徑經過。

(130)
垂示云、騎雨騎風、是什麽。代云、逼塞乾坤。

(131)
垂示云、諸病有藥、佛病祖病、將什麽醫之。代云、細抹虚空醫之。僧云、如何是虚空細抹藥。師竪一指云、看看。

(132)
垂示云、兩陣相對時、誰是勝者。代云、先進者勝。師云、勝者是誰。僧云、和尚亦不少。師云、老僧無處藏身。

(133)
垂示云、逢茶喫茶、逢飯喫飯、意旨如何。代云、逢茶喫茶、逢飯喫飯。僧云、何不轉過那邊去。師云、衆生顛倒、迷己逐物。

(134)

垂示云、水鳥樹林、悉皆念佛念法、下語來。代云、聖人復生。

(135)

擧、古德云、是是無是道理、非非無非道理。是非共去、特地好乾坤。師云、如何是好乾坤。代云、當頭霜夜月、任運落前溪。

(136)

垂示云、長連床上有粥有飯、諸人如何喫却。代云、不入其保社。僧云、爲什麼不入。師云、吾這裡無如此閑家具。

(137)

垂示云、氷自水生還成水、此理如何。代云、謹謝指示。

(138)

垂示云、相逢無問話時如何。僧云、謝問話。師云、謝答話。

(139)

又云、相逢不呈機時如何。代僧云、和尚已呈機了也。師云、老僧不呈機。僧云、於此不打招人笑。打席一下。或又打傍僧云、此棒代和尚你可喫。

(140)

又云、一燈分成兩燈時如何。代云、燭。

(141)

垂示云、本色住山衲子、爲什麼不具行脚眼。代云、不具是眼。僧云、和尚更缺一著在。師振威一喝。

(142)

垂示云、田間蝦蟆語什麼事。代云、和尚放憨作什麼。

(143)

垂示云、八角磨盤空裡走時如何。代云、露。僧云、和尚用常住物、作自己用那。師云、吾被你勘破了也。

(144)

垂示云、兩陣相對不見贏輸時如何。代云、截斷紅塵水一溪。又云、并汾絶信、獨處一方。

(145)

垂示云、久雨晴時如何。代云、日出乾坤耀。僧云、和尚爛泥裏有棘。師云、失利。

(146)

因聞江州陣、垂示云、江州合戦死亡不知數、什麼處去。代云、柳緑花紅。

(147)

上巳垂示云、人面桃花相映紅、不審、桃學人耶、人學桃、試道看。代云、人學桃、々學人。僧云、學底蘆。師云、問取桃花去。

(148)

太清軒僧虎轉侍者時、有僧云、古人道、虎斑易見、人斑難見、這裡不然、虎斑難見、人斑易見。師聞之代侍者云、虎斑與人斑相去多少。又代前僧云、果然、釣得這語。又代侍者云、吽々、拂袖去。

（149）
垂示云、如何是雑説。代云、恰似衲僧機。僧云、意旨如何。師云、惑亂多少人來。復云、如何是實説。代云、一句合頭語、萬刧繫驢橛。復云、實説與雑説畢竟如何。代云、前三々後三々。

（150）
悦溪忘首座、曾在如意庵、與宗悟縫紙衣、時古岳未出世已前、來見云、這紙衣下語來。悦溪云、風吹不入。古岳肯之。古岳下語云、包裹天地。悦溪後來舉似師。々代云、裂破天地。〈裂破、舊本作衣破。或云、恐衣被乎。〉

（151）
古岳謂悦溪云、若有人舉錢、問是什麼、如何答得是。自代云、鐵團圞。又問、意旨如何向道。通貫十方。師聞云、山僧不然、是什麼。代僧云、錢。師云、果然釣得這語。

（152）
舉、大應國師住鎌倉建長時、相州太守享國師及諸山尊宿於第宅。太守因盛黄金於盆、置諸尊宿前云、請各下語得取這金。一尊宿云、攫金者不見人、即取金。國師默然。後來華叟和尚問養叟云、國師默然處殊勝也。雖然未十成、代國師如何是。養叟云、一喝拂袖去。華叟代云、以手推出盆可默然。師云、若是山僧向佗道、我付與汝、便可推出盆。

（153）
垂示云、如何是眞實一句。代云、摩訶般若波羅蜜。僧云、意旨如何。師云、海口難宣。

（154）
舉、大弘先師垂示云、一死不再活時如何。先師代云、千眼看不見。師代云、一失人身、永刧不復。又云、萬里一條鐵。

（155）
舉、先師問衆云、人死向什麼處去。言外和尚代云、向什麼處去。師代云、不審々々。

（156）
師因江州太守佐々木氏以肩輿獻師、々見之、垂示云、輿在這裡、主在什麼處。僧不契。師代、竪起拳頭。僧作見勢云、左邊耶右邊耶。師便打。僧拂袖去。

（157）
垂示云、臨濟道、正法眼藏、向瞎驢邊滅却、爲什麼今日建立正法寺。僧云、重疊關山路。師肯之。〈永正十一年六月十三日、正法入寺時也。〉

（158）
又云、龜背定封彊、鷲頭建梵刹、是什麼人行履處、試道來看。代云、隨處爲主、立處皆眞。僧云、如何是爲主底。師云、天上天下唯我獨尊。僧云、老々大々、作這箇語話。師云、我被你抑逼。僧禮拜。師便打。〈正法寺在鷲山、下関民部大輔居城在龜山也。〉

（159）

舉、大弘先師問云、如道悉見三千界、法華宗隔障子見麼。法華宗無對。先師云、代法華宗如何道得是。代云、不見是見。師代閉却目。悅溪瞠眼云、悉見三千界。

(160)

古岳相訪次、悅溪入來侍坐。師因問云、不涉言句、呈機來看。古岳云、却請和尚道。悅溪便一喝、拂袖去。玉英云、摩訶般若波羅蜜。師休去。

(161)

宗朝首座〈號東海〉問師云、醉後添盃時如何。師云、開口看膽。朝云、果然釣得這語。師云、吽々。朝拂袖去。

(162)

朝首座問云、諸方詣祇園、還有靈驗也無。師云、却道有靈驗也無。朝云、非老兄與一掌。師云、作家々々。朝低頭出去。

(163)

師問朝首座、如何是即今底事。朝云、老兄還道、如何是即今底事。師云、何不道。朝作嘘々聲、便出去。師隨後便掌。朝呵々大咲。

(164)

朝首座問、作家相見、月白風清。如何是即今相見處。師云、月白風清。朝云、此是先師語、何別不道。師云、道箇什麼。朝便打云、君向瀟湘我向秦。師云、恁麼々々。朝云、諾々。

(165)

師問云、若有人問、熱發作什麼、如何答。代云、爲看深淺長短故。師又云、代前人更如何道。又代一喝、拂袖去。

(166)

福壽院久峰〈一作宗宕西堂〉、住龍翔寺、指山門云、出福壽海、入圓通門、化龍意氣、呑却乾坤。喝一喝。大弘禪師云、諸佛事了、歸方丈時、若有僧於廊下問道如和尚前來云、拄杖子化龍、呑却乾坤去〈一本作化龍意氣呑乾坤〉。即今和尚、向什麼處、安身立命。代久峰長老、如何祇對。衆各下語。師云、你此一問、從什麼處來。大弘代云、老僧且置、你作麼生。大弘復云、代僧如何再問。師云、今日觸忤和尚。大弘代云、與和尚同路行。大弘云、代久峰如何祇對。師云、這箇師僧却堪持論。大弘代云、把手共歸方丈。又云、是好箇問答也。

(167)

泉南宗椿居士請師於宅、齋次、師擧大燈國師垂示云、八人入山、掃地灰盡、一佛出世、滿天光耀。師云、若有道得底、下座禮拜。衆不契。師打云、道得底無一個、且參三十年。

(168)

大弘禪師時因香錢帳、令衆下語。師云、恩大難酬。古岳云、孝子不使爺錢。又師問古岳、椀子落地、爲什麼楪子成七八片。岳云、却道、爲什麼成七八片。師云、椀子落地、楪子成七八片也。

(169)

師曾參大弘次、弘問、端居丈室時如何。師云、煒々煌々。

(170)

師住靈山時〈永正四〉、人日爲大弘禪師設佳齋〈大弘住養德〉。大弘垂示云、靈山主翁、祝人日令辰、爲老僧設齋、即今以甚麼作人日一句、諸衲提唱來看。大弘代云、壽陽落梅妝額、惑乱多少來。師云、和尚亦不少。大弘云、今日失利。乃拈拄杖云、七尺烏龍出來。別云、靈山一會、今日猶是儼然。養德門下興盛、以之爲人日一句、留與後人。

(171)

春浦和尚垂示云、掃煤無塵時如何。代云、猶有一點在。僧云、如何是一點。浦云、看取問頭。師別後語云、不可作野狐精見解。

(172)

養叟和尚垂示云、雪覆千山、孤峰爲什麼不白。養叟代云、一喝拂袖去。後來春浦和尚代云、早覺寒毛卓竪。師下語云、依俙似曲纔堪聽、又被風吹別調中。

(173)

養叟和尚垂示云、老僧日々登山截棒、誰是活底人。養叟代云、老僧愛嗔不愛喜。僧云、意旨如何。叟云、水歸大海、終作波濤。師下語云、五逆聞雷。

(174)

養叟和尚垂示云、我見燈明佛、本光瑞如此。是以於燈籠上、一句道將來。代云、踢倒燈籠消光明。師下語云、照見和尚面背。

(175)

開山忌、實傳和尚問春浦和尚云、國師還來麼。浦云、待澗水逆流便道。傳云、澗水便逆流、請和尚道。浦云、逢白棒不在手。傳便禮拜。浦便喝。傳又問師云、國師還來麼、答話着看。師云、學人更不可道。傳云、爲什麼不道。師云、今日口吃。傳云、爲什麼口吃。師云、和尚把襟看肘那。傳云、你知這般事、便休。師便禮拜。

(176)

師爲首座、古岳爲藏主時、岳手持一軸立、師見而問云、手裡是什麼。岳便擧起軸。師亦竪起拳頭。岳以軸作打勢。師便拍掌呵々大笑。

(177)

師問云、有人若問、直透萬重關、不住青霄裡時如何、々々答得是。一僧云、月白風清。箱意一僧便喝。三知客　師代云、今日廿九。〈其日廿九日也〉

(178)

大弘禪師、因兩僧持香錢來、大弘云、錢下語來。師云、通貫十方。弘肯之。一僧云、鐵團圞。古岳也

(179)

師爲德禪・養德兩寺主時、東海問云、和尚住兩處、那箇是主人公。師云、即今當一問。東海云、春寒甚嚴。師便打。〈東海語人云、東溪故如此勘破、余猶欲再問。末後云、打可収

去云々。〉

（180）

先師因祖忌垂示云、達磨不來東土、爲什麼今朝相逢點一椀茶。自代云、點一椀茶了、更有事也無。師云、有。先師云、吽々。師云、非和尚與一掌。一僧云、今日逢此一問。先師云、作這箇語話、々頭亦不知。僧云、托上某甲於梵天那。〈一本、一僧云巳下作師語。〉

（181）

元旦〈長享二〉、師問大弘、鶯逢春暖歌聲滑、如何是和尚一曲。弘云、百花春到爲誰開。師指露柱云、露柱即今唱拍相同。弘云、如何是唱拍。師便喝。弘便休。師禮拜。弘便打

（182）

椿首座問、如何是新年頭佛法。師云、禍不入愼家門。椿便禮拜。〈師住松源時也。〉

【史料（二）駒澤大学図書館所蔵『大圓禪師夜話』】

（改表紙）

龍源夜話（貼題簽、墨書）

十七（題簽下）

（原表紙）

□（朱印一顆）

卜雲老拙書

不容他見　宗詮

大圓禪師夜話

永正年中清菴和尚意藏主時聞書也

（原表紙裏）

天明、徹翁トノ問答ソ

當金尊鳥王宇宙、龍峯山裏龍、向什麼處潛身。翁云、開口見膽。　明云、這般禪者如麻似粟。　翁云、為某令梵天□

上耶。　明礼拜。　後明云、横岡ノ佛法ハ如笋ナト云レタソ。ヨクイワレタト云事ソ。　ホメテモヨキ人ソ。　（表紙裏）

（1）

〈師云、吾受業ノ處ハ、李文タケイ處也。吾ハ十歳ヨリ詩ヲ作テ、人々意見ヲモ不受シテ、會ニ出タソ。人々見セテハ無曲故也。頌ヲハ十四五ヨリ作タソ　十七歳ノ四月八日ニ落髪シタソ　十八之年初テ西関ニ参万法話ソ。一年ツマリテ、十九ノ年終ソト云々。

（2）

〈師曰、會下ノ僧達紋段子ナトノ結構物コソ被可レケレ。布子布頭中ナントヲハタシナウテ、シヤハリト洗テ被サシメ　出家沙門タル者ハ、為人天之師範、佛法建立セウスル者カ、サノミ卑劣ニシテ、イツ髪剃タヤラ、布子ノ一モ、イツ洗アケタヤウ、不見様テハ不可計也。

（3）

〈師曰、大慧武庫ニアリ。盗賊ノ有タカ、吾子ヲ唐櫃ニ入テ、知人ノ（1オ）蔵人預置タリ。此子思案スルニ、可出様カ無也。色々思案シテ鼠子ノ彼唐櫃ヲ咬マ子ヲシタソ。主人夜照灯テ見ルニ、鼠子無也。然後又大キニ咬聲ヲ成タリ。又主人燃灯テ見ルニ彼唐櫃也。挑唐テ灯櫃ノ蓋ヲ開テ見之。此子、蓋開ヒヤウシニ跳出テ、先灯ヲ打滅テ、主人ノ頭ヲヤマセテ、其マキレニ出去也。暗中ニ家中ノ人驚テ欲逐。此子北サマニ大石ヲ把テ、タンフリト井中ニ投テ出去也。家中人、賊投井中ト云テ、井ヲ見間ニ、逃去也。還家テ見父、々問之、具ニ前事ヲ述フ。父喜テ真我子チヤト云タソ。禅僧ノ李者ヲ可接様也。可如此也。

（4）

〈師坐話次、有人曰、未見化生者也。何為者ソ。一度見度候ト。師曰、先人ホトノハケ物カ可有耶。人ハ躰ハサノミハケ子トモ、心カ色々（1ウ）化物也。心ホトヲソロシイ者ハ無也。狐狸ノハクルヲ人ノ不得知ハ、異ナ事也。又、人ノ鬼ノ面ヲキタランヲハ、狐狸モ不得知也。人ハ人ノハクルヲハ知也。狐狸ノハクルヲハ、犬ナントハ知也。境界異ナレハ不知モ異事也。

（5）

〈昔名譽ノ祖師ノ有タカ、死時、今コソ牛頭馬頭来テ責ルハト云テ、ワメキ叫フ處ニ、有侍者曰、既是大善知識テ候ト、名高ク御座アタニ、牛頭馬頭カ責ルトテ、ワメキ有ハ狂忽ナ事テ候ト云。彼祖師忽起テ曰、昨日カ即是、今日カ即是云テ則死。師曰、イツレ師家ノ前ニ使ワル、物ナントハ、大事ノ事也。彼祖師モ、其マ、死タラハ、何為ル者ヤラ知マイカ、侍者カトカメタニ依テ（2オ）意趣ヲ知タソ。病苦ニ被逼テハ、何トシタモ色相ノ上テハ同物也。

師曰、現成シタ者ハ色々カ有也。人ト云者モ、心々カ人々□カハリ、面体モ換ル也。本草モ同シ雨露ヲ受テ生タニ、各々別々色々ナル体ニテ生ハ異ナ事也。

（6）

〈師曰、大灯国師ニ有僧問曰、如何是律手段。師曰、持五百戒不破一戒。又問曰、如何是禅手段。國師曰、不持五百戒不破一戒。

（7）

〈師曰、老僧ニ人ノ華ヲ賜ツナトスルヲ、中テ大事モ無ナト云テ、一兩本、私テ取ツナトスルハ、大無道心ナ者也。御影ノ時、有人（2ウ）献華有、有一僧、私ニ二本取之。使僧、和尚面前テ被露ス。和尚、事ノ外無興也。云々。

（8）

〈佛法ノ上テ口ニ出テ云ホトノ事ハ、人ヲカシイ事ハ有テコソト云々。諸人猿樂見物ノ時、書院ノ落書、実傳和尚出曰、是ハ落書ヲシタ者コソ、可有成敗也。長々ノ普譜ニ一日カナト窮屈ヲ仲テ見物ナトヲスルハ、不苦事也。以後モ如何様ナ事ヲモ書院ニ落書ヲシテ置カハ、勿躰ナキ事也。大宗禅師、諾之。諸人帰後無一語驚也。

（9）

〈師カラスキカハナヲ行次、諸人、此河ハ人ノ酌テ飲水也。源ハ寺ノ中カラ流ル、西浄ノ尻ナトカラ出ル水ナリト語ル。師聞曰、（3オ）我モ人モ人々有ル事也。手トモハ不浄ナ物ヲ水ヲモ將扱カ口中ヘ入ル、物也。水ヲハ、不浄ナヲハキタナカリ嫌ソ。腹中カ清物トモ不思、イワレヌ事トハ、知ナカラ如此アルハ不知理也ト云々。天琢和尚球蔵主ノ時、事外貧僧也。有時養德院テ冬烈風ノ吹ニ、スワウ一枚衣テレンジヲ張タソ。大宗禅師ノ曰、球藏ハサムソカト被仰タレハ、球云、チツトモ寒ムク候ハヌ。何トテ寒ハ無ソ。球曰、貧寶ノマツフクラテ候ホトニ、寒モ候ヌ云々。

（10）

〈僧無十年孝則不作正法器、古人語也。孝問ヲモチト可為也、不可捨也。

（11）

〈大慧云、逆境界易打、順境界難打。孝者有同會下（3ウ）和同佛法冨。孝者ハ寿命惜テ、截断ノ弱ナ事有也。是ハ順境界ヲ云也。貧孝者ハ、吁、何時為什麽死モ同事、一度ハ可死ニ活計ニ死ナイテト思テ、寂滅ヲ為樂ホトニ、截断之心カ強也。故易打ト云タソ。

（12）

〈徹翁在世時有謂佐侍者人、一夕夜之次、翁為佐侍者有折檻、良久シテ、佐起座テ、障子ヲ悪クタテ、出。翁乃僧籍請テ、佐侍者之名下ニ、自書云、大鈍ノ者也ト。是ハ佐大段利根ナ者ナレトモ、對師家シテハタラキヲ見ニ、悪クアイシラウハ、

大鈍ノ者ソ。主ハナニトマリ、印可ヲ可取ト思タ人ナレトモ、平成意得カ悪ニ就テ、無印可状也。晩年ニ無印可處ヲ口惜敷思テ、狂気ニ（4オ）作タソ。有人座敷ヲ作越テ、鳥子ヲ以テ新クハリ起タ障子ニ、大字ニ書云、正知正見正聞ト、是モ狂氣故也。又一日有人見事ノ茶壺ヲ以テ自称シテ、見事ノ壺ト慢シタ處ヲ、佐出テ將壺テ縁ノツカ柱ノ石坐ニ打當テ、繫砕曰、吁氣散シヤト、是モ亦狂氣也。雖然、古ノ垂示ニ、佐侍者曰ト云事カ多ソ。

（13）

〈嘉大象、開山ノ時、万法ノ話ニ十年ツマリテ、句ヲ着ル事忘却。開山曰、何モ可作句ナレトモ、見地カ悪ヒホトニ無曲也。常曰、大象之見地禅ハ、如泥牛築橛也。

（14）

〈師家晩年ニハ嶮峻ナ者也。華叟和尚晩年云、我壽ハ惜キ事ハ無カ、マチツト長生ヲシテ孝者ヲナフリテ遊テト云々。（4ウ）

（15）

〈師一日、苣ノアヘ物有リ、少シニ成テ飽テ有リタレトモ、皆食曰、下人ハ不食シテ捨ル者チヤトホトニ、皆食タソ。此頌ニ曰、食シ殘タ者ヲ捨ルヲハ竪牢地神食ト云リ。竪牢ヲハ堅固尊天ト云タソ。指本分テ云ソ。食シ殘タ物ヲ捨レハ何モ無ソ。作ルハ、本分カ食シタ事也。

（16）

〈師伊蔵行脚之時、愁傷涙下、□（位カ）人聞曰、異ナル事也。大雲ノ愁傷有ルワト。師ノヒイキノ者有テ曰、全其旨ト。師聞テ咲テ曰、我ヲハ皆馬カ牛カト思タケナソ。今日ノ上テハ哀キ事モ無テハ。其落居ヲ用ルコソ肝要ナレト。

（17）

〈果然ト云ニ、落テ用ル處モ有リ、ホメテ云處モ有ソ。果然々々ト云ハ、落タ方斗ニ用ル也。アイツラカ、マツコレホトノ事ヲ為ント思タ落テ云ソ。アノ人達ノ上テハヲンテモ無イ、マツカウヨカラウト思タ（5オ）ト云タハ、譽ソ。果然々々ト云タハ、吁、脛キラレ、マツカ、ル事ヲヌカスト歎シテ云タソ。禅僧ノ言ハ、世上ニキヨクリ逢言□□也。人ノ愛子言ニ、吁ヲヤマキニクイソト云ハ、皆愛ノ太キ言也。又ハ罵ル言□（意カ）如此ナ事多ソ。

（18）

〈岱崇ハ、ス子タ人也。春浦和尚、常有事ハ、問諸人意見。吾キヨセナヲ聞容ソ。一日問岱崇意見。吾キヨセナヲ聞容ソ。一日問岱崇意見。崇曰、イヤ申候マイ。和尚云、ナセニ云マシイソ。誠マイナラハ、口ヲ破テ言セウソ。崇曰、口ヲ御破有ルトモ云候マイト。和尚云、ナセニ破トモ云マイトハ云ソ。崇曰、申トモ御聞キ有テコソ。和尚云、吁、ス子者カナ。又一日与和尚イサカイセラレタソ。和尚、寮ノ口

ニ立ニ立テ曰、是非ニ不可許、出テウセセヨト。崇曰、何トヲ、セラル、ト出テウセウニコソト。実傳（5ウ）和尚ハ、何事モ春浦ノ氣ヲハカラウテ被仰様ニ作事ソ。サルホトニ真首座ホトノ人ハ無キト常ニホメタソ。安當竺後カ京兆ノ氣ニ合タモ是ト同事也。

（19）

〈有俗人因問師曰、一對鴛鴦畫不成ト云句ハ、何ト可心得ソ。師曰、一對——色相也。畫不成ハ、本分也。万里一條鉄ト下語シタラハ、可相合ソ。又ハ一句ナラハ本分トモ可見ソ。

（20）

〈洞家ニハ、色相ヲ主ニ取テ、本分ヲ賓ニ取ソ。吾宗ニハ、本分ヲ主ニ取テ、色相ヲ賓ニ取ソ。面前ヲ主ニ取ソ。

（21）

〈華叟和尚ハ、遂平僧テ過サシマツタソ。堅田之正通庵ヲ授老ソ。養叟、一休ハ正通庵テノ會下ニ有タソ。華叟遷化後一休（6オ）暫在養叟會下ソ。未休明テ出テ、立一派ソ。大用テ打米時、一休ハ衣物ヲ腰カラウテ打タソ。後ニハ衣物カタレサカツテ、大ナルマラヲ打振テ、タツタ打テ々々ト云テ打タソ。メイヨノスマラ也。春浦和尚常ニ咲テ話ソ。

（22）

〈了義首座、後醍醐皇、南方ヘ落行タ時、國師之御使ニ行タソ。了義首座ヲ執ヘテ、状ヲ取出テ見テ、関吏欲誅。吏曰、夢窓之御弟子ト被仰ヨ。放シマイラセウト。首座曰、及急難ト云テ、瞽ノ弟子ニ為リ事ハイヤト、急々殺セト云。関吏遂殺之。國師曰、吾ニ志深者テハ有ル。片枯ナカイヤチヤト云タソ。了義ハ徹翁ヨリ師兄テ有タソ。何ヤラ造化ノ事ニ、國師之状ニ（6ウ）曰、義首座亨首座□人ト書タソ。

（23）

〈雨蛙鳴時、師曰、雨ノ降ヲ知テ鳴、何ト有ソト。諸人無答也。一僧云、何ト御入有ルヤラント。師曰、何トナリトモ道理ヲ一ツヲシナレカシト云テ咲タソ。

（24）

〈師曰、何ナリトモ不審ナト思ホトノ事ハ問来。吾高慢テハ無ソ。臨済宗テ於テハ、吾ニ可相双者モ不可有也。

（25）

〈師曰、洞家ノ太玄示諸人曰、一切善悪都莫思量。其弟子ノ曰、善悪都莫。其弟子穴堂曰、都莫思量。師曰、是一切之字ノ入タモ、片句云タモ、トレモ同事チヤニ、色々云換テ、名譽カラスル、無曲事也。

（26）

以五筒杏子献師、々曰、五ハ何ソ。僧答曰、人賜夕間、五其マ、進也。（7オ）師曰、莫作筭数會。

（27）

〈何トモ有レ、人ノ指テモ無キ事ヲ云ニ不可争也。一任シテ

□（曾カ）不論カ佛法者ノ第一ノ心得也。不可與物拘也。

（28）

〈飯ヲ食シ蔓草等ヲ食スルモ尽殺生也。虫鳥ヲ殺□スルモ同事也。未蔓等モ地カラ生シテ自小至大也。不是生者也。

（29）

〈卓然騎馬テ路ヲ行時、逢山名殿テ下馬ス。山名殿、人ヲ以テ曰、是法平等、無有高下故ト云タニ、為什麼和尚下馬ス。卓然。是法平等、無有高下故ト云ヲ、ヲヤマケト云タソ。答話ハ自己ノ上、無有高下故ニ、某對シテ下馬シタト云對也。（7ウ）

（30）

〈和尚一日物スキノ周孝歓楽スル時、大事ナ折節、拝賞和尚一句ヲ問キ、前ニ不問一法者也。和尚至病室、々前ニツタヤ牽牛ノ花共有キ。折節雨降テ葉々有露キ。和尚問曰、何事ヲ可問ソ。答曰、死時ニ何ト可用ソ。師曰、アノ葉ニ有露ノ消ト同事ト思ヘ。孝良諾。

（31）

〈一日夕立ス。師曰、夕立ハ三シキリスル者也。定テ如此有ル□□不知也。何ニモ尽天然ノ事也。天之所定也。人間モ如此也。是非貧福天然也。

（32）

〈師曰、佛恩甚深也。闘諍兵輩不干意、奉公之□□無一点（8オ）活計ニ生死到来ヲ用也。尽是仏恩也。

（33）

〈師納涼次曰、風吹木葉、々々尽動。人之目ニ不見ハ異物也。不知理也

（34）

〈師曰、随意ナル皆閑者トモヲ、シタ、カニ悪ク云テシカルカ恩也。サナクハ、何ヲ以テ截断ノ用ハ強カルヘキソ。大宗禅師ハ毎日自頂ヲハツテ曰、吁、此閑者カ長生シテ、用ニモ不立シテ、クセ者イヤソト云々。

（35）

〈養徳和尚頌曰、若大慧灌瓜戒峻峻、機鋒近者難。師不知此故事。問養徳和尚。々々曰、諾ヘヲシリ候マイ。我亦何ニアルヤラハ不知也。大宗禅師御筆ニ書テ賜タソト。故事ハ、昔瓜ヲ作タ者有。毎月灌瓜タホトニ、瓜肌テ佳也。隣ノ瓜作リ相嫉テ作障礙タソ。是ヲカワイケニ相妬意ヲモタセシトテ、不（8ウ）看間ニ、隣ノ瓜ニモ灌タソ。是ヲ大慧戒曰、衲僧分上テハ、非興ナ事也。イカニ何トカ可言トモ、イロウ無用ソ。我瓜ニハ水ヲ灌テ好コユルマテ、可言事ヲ。落草求人竟介（境界）テ、慈悲カ餘テワルイソト云。イカニモ師家ハ峭峻ナカ本也。

（36）

〈昔伏見ニ有人麦ノ粉ヲ食テ、口ノハタニ着テ寝入ル。有鼠

頰ヲ嚼破シテ、口中ノ麦粉ナヲ食テ頰ヲ食破ス。有薬師テ、竹ヲ鳥籠ノ様ニシテ破タ處ヲ補タソ。其上ニ壁土ヲ塗テ補□ル此日竹酔月也。故ニ頰ノ竹生長シテ作二三里之大藪也。此ノ竹ヲ煎リ賣テ、大徳人ニ成也。其名ヲ竹作ノ翁ト云タソ。是非虚語カ、非虚語ト見タカ好也。落居何事モソラ事也。此理ヲ以云タソ。本分カラ見レハ、先生死ト云事、ソラ事也。イツ本分上ニ生死（9オ）カ有ソ。無生無死也。故ニ尽是ソラ事也。生死ト云者ハ、假ニ只暫約如幻之理者也。尽是善悪ソラ事也。実ト云事ハ無也。皆幻也。

（37）

〈有人為子作佛事。師曰、逆ナ事也。理ヲ不知也。□欲シ□方テスル事也。雖然依作佛事テ、悪所ニ可生者生善□理也。

（38）

〈電忽ニ輝。師曰、何トシタ者ソ。何トモ不知理也。

（39）

〈永正三年七月箒星出、古老之人曰、乱中ニ出也。是皆兵乱ノ兆也。師曰、何トテモ無事ヲ云也。天生地儀ノ理ハ、佛祖不識也。箒星生出タ折節、乱カ興リ合タマテヨ。何ノ道理モ無事ヲ云ソ。

（40）

〈古人云、迷悟在人不在法、只在信不信也。（9ウ）

（41）

〈信功徳之母也。成就一切願。

（42）

〈大慧云、不如三家村裡死得。是ハ無道心者之事也。有信者ハ師家ノ折檻ヲ殊勝ナト思テ、氣ニハ不懸也。無道心ナ人ハ腹立スルソ。

（43）

〈特芳和尚自讃云、西源水急、北固山高、随處為主、夙債難逃。師曰、随処為主處皆真ト云理ヲ不知也。為主タ□ニハ、何カ夙債ト云事カ有ソ。是ハ字面斗ヲ云タソ。言句ノ秘曲ハ、吾派独存也。吾ナラハ于彼テ此夙債難逃ト可作也。西源モ北固モ特芳之寮之名也。看物主眼卓竪□云句モ、吾（10オ）派之秘傳ニ物ヲ主ニ見テ眼卓竪スト讀ソ。有ホトノ物ヲ本分一枚ト見ル時ハ、眼ヲクツト見出テ、目ニ稜ヲ立テ見也。

（44）

〈白翁池寺之在積翠寺、□（刈カ）庭草次、山カミノ寂室會下之僧来テ需看。翁不相見。時秋雨之時分也。僧自門外高聲ニ問曰、秋雨蕭々有ル什麽事。翁自門内答曰、秋雨蕭々有ル什麽事。僧在門外礼拜而去也。

（45）

〈師秋雨之夕、兩三輩寂々トシテ侍師傍。師曰、人ハヲカシキ者也。此徒然ナル処ニ、何トモ理ヲ不證者カ、ウロ〳〵トシテ居也。有時ハ種々之六借道理ヲコマセテ有ハ、ヲカ

シイ事ソト云々。
長途一〳〵何妨千里之行、大梅折一木歟。豈欠百歩之（10ウ）陰於人亦如。知識ナト、云者ハ、何タル錯リ有リトモ莫錯々因テ佛法之勝劣ハ不可有也。

（46）
〈家高者大膽也。

（47）
〈寛収教盗也。肅貞教淫也。心者与面不同、人之心者人々面之別ナル如ク、人々心モ不同也。

（48）
〈人ト云者ハ、キロ々々トシテ理モ不證者也。理之所不證ヲ□證事肝要也。譬ハ如濁水飯銅ナトニ濁水ヲ入テ、暫シテ委セテコソ清水也。濁時ハ如迷人也。則者如悟人ソ。

（49）
〈虞セイ一片閑田地往周國訟之見、周改自路帰而□（苦カ）田地ヲ辞シテ、無主ホトニ、名閑田地ヲ別ニ用ル子細有也。（11オ）

（50）
〈有志テ物ニ可作ト思ハン者ハ、不要ニ身ヲモツマシイソ。古人モ□大□之上。無仲尼又曰、千金之子不垂堂、高臺之事也。又曰、君子不蹈危欄。

（51）
〈漁父ハ聖人也。屈源賢人也、云々。伯夷叔斎ハ賢人也。大公望ハ聖人也。任運ニ其々ニ随テ推遷ヲ謂聖也。偏枯ニ道理ヲ驀直ニ可立ナト思カ賢也。

（52）
〈方便之殺生勝菩薩之万行。

（53）
〈聖道ナトカ舎利ヲ躍ラスルソ。是ハハウカノリウコヲ種々ニ舞ト同也。又手中ノ秘事モ可有也。徹翁和尚又ハ随分ナル先師達モ舎利ヲ信メ有ルカ多ソ。我ハ是テ於（11ウ）テハ不信ソ。其故ハ真実ノ舎利ト云者、黄金ノ霊骨ト云タソ。本分ヲ能用ヲ上テ可事テハ無ソ。縦真実ノ佛骨ナリトモ、佛ノ骨マテヨ。閑物マテ也。

（54）
〈春浦和尚、何似生ヲ書テ、光侍者ヲ以テ御贈有クソ。軈而或有納所寮ニ行テ、借テ御礼ニ立テ懸字ヲ被下タ。過分ナト被仰タソ。春浦和尚壽像ヲハ、実傳ヲ掛サシ、人此何似生ヲハ、我御影ヲ掛タト思テ置カシメト云□。是モ印可ノ心也。

（55）
師庭ノ掃地ヲスル時、有客僧テ尋タソ。恩書記来テ縁上ヨリ牧蔵主、人カ尋スワト云タソ。春浦和尚影ヨリ見之テ曰、アノ恩書記メカ、クワン怠ナ、老僧ノ庭ヲハカルヽニ（12オ）上カラ物ヲ云タトテ折檻有タソ。但恩書記ハ、同年テ有タソ。

春浦ノ被仰タハ、影ノ佛法ノ老僧也。

(56)

〈大灯國師六歳之時、若黨磨小刀。國師曰、作什麽。若黨曰、料快利。國師曰、不快利処有快利、你還知麽。事繁多也。

(57)

〈人生不如意、如山中推車。別人語也。

(58)

〈南浦在徑山日、問虚堂和尚云、節前ト云事ハ、何タル事テ候ソ。答曰、済家有入室無節前、洞家有節前無入室ト云々。関山派行節前、皆續洞家故也。高氏将軍夢窓請シテ欲行入室。夢窓曰、吾ハ入室ヲ可行仁ニ（12ウ）アラス。建仁寺ノ仲嵩山□カ有ト云々。即自将軍請嵩山入室。々々僧達十人入室。嵩山ハ入唐ノ僧也。好个僧也。建仁至今有入室牌。鷲山和尚中ノ将軍ノ中陰ニ七日コトニ行入室ソ。入室僧十人。師曰、有僧入室之時、耳朶兩片皮ト云句ヲ云タ。後ニ別僧、牙歯一具骨ト云タレハ、不是々々ト云テ、被打タソ。

(59)

〈言外和尚時、勝定院殿柱駕於如意庵。坐話曰、ヲチテ候者ハクワホウ有麽。徹翁和尚相看申テ候ト云々。言外無對。一座失色。将軍帰駕後、會下衆申事ニハ、将軍之被仰タ事ニ無返事ハ曲事也、云々。言外和尚云、返事（13オ）セウトハ思タレ共、物モ不知事ヲ云ホトニ、返事セナンタソト云。我ニ一句ヲモ問得テ、先師ニヲトツタ事モ有ハ、云タカ理也。不問者ノ分テ云タハ、推参ナ、物モ不知事也。

(60)

〈開山時、諸方ニ定坐ト云事ヲスルニシテ見ヨトテ、一夜開山モ御沙汰有リタソ。朋日ニ被仰ル様ハ、吁、一夜睡ニカラカウテ、イヤナ物也。僧達モ皆寮々ヘ行テ、随意ニ可有工夫ト云テ、停止有タソ。

(61)

〈師曰、一蔵主カ様ナル閑者ヲハ打殺シタイ、佛モ可様ナ者ヲハ打殺セト云タソ。斬百千頭有何過、云々。佛説也。

(62)

〈松源禅如黒豆ト云タハ、換却眼睛意也。辛□（勞カ）ニ接（13ウ）人シテ無覚悟無句トモヲ云タホトニ、諸人不會シテ無定目也。眼ヲ黒豆ヲ以テ又キ換ラル、ソ。

(63)

師曰、月庵之會下僧ノ七百人、有時キ、バカナ僧カ有タソ。月庵ハ物祝スル人テ有ヲ、元旦ノ暁懸書説テ、彼僧一問シテ曰、四百四病一時起時如何ト聞タレハ、答曰、不干山僧事ト答話シタソ。萬何事モ答話カ上手テ有タソ。

(64)

〈師曰、有人ハリマノショシヤニ参籠シテ、肉身ノ普賢カ見タイト云テ祈誓シタレハ、有夜ノ夢想ニ江口長ヲミヨト有タ（正ウ聖人ヲ云歟）

ソ。是ハ（14オ）先師達モ沙汰セラレタ事ソ。肉身ノ普賢ガ看度ハ、往テドスヲ看ト云タホトノ事ソ。見ヘハ是テハ有ルマイソ。金剛正躰ヲコソ普賢トワ云スレ。

（65）

〈師曰、天王寺ノ舎利ハ、太子ノ握テ生レタ。南無佛ト云テ、開カレタソ。其ノ舎利ヲ今出ス。時、鐘ヲ七ツツクソ。其ヲ有ル人哥ニ讀タソ。南無佛ノ出タセル舎利ノ七ツ鐘音モサソナ今モソウ調。此哥ヲ皆御心得ソウタカ。一僧云、不知。師曰、此哥ハ、ソウ調ト云ハ、調シノウチテハ、十二調子ノ六番目テ有ルソ。昔モサソナト云タハ、佛ノ事也。尺迦ハ中道ヲ本ニシタソ。其ノ謂レハ、二月十五日ニ涅槃シタモ、春（14ウ）三月ニトレハ、二月ハ中也。卅日ニトレハ、十五日ハ中也。四月八日生タハ、ナニトレハ、八日、十日ノ内ナレハ、中也。臘月八日モ同事也。尽中道ヲ本ニシタソ。昔モサソナト云ハ、尺迦ノ事ヲ云タソ。今モ双調ト云タハ、調ハ中ノテウシテ有ルホトニ、今モ同シ事ソ云心也。（ト脱カ）

（66）

〈師、少年ノ時、九州ニテ察ヲ造テウツル時、其ノウツリタル日、親類近着共カ、百貫折帋ヲシテ聽而現錢持テ有タソ。其レ様ニアツタホトニ、尋常ヘンタウニ有タソ。左様ニ有タレ共、京ヘ上ル時ハ尽ク捨テ、中間一人ツレテ上タソ。上リ着テ、大町ノ孫右衛門カ處ヘ落書タソ。其ノ時キ雑物ヲ筭用シタレハ、卅貫斗有タソ。先ツ田舎テ思タ（15オ）事ハ黒染衣紙衾ナントテ堪忍セウスト思タ処ニ、小袖ヲキ、道具ヲキスルホトニ、案ニ相違シテ小袖ヲシ道具賣帽子ヲシナントシタレハ、卅貫ノ錢モ其ノ年ニ皆ニナツタソ。其後白カヲ十貫斗カヲ上テクレタソ。又其ノ後紫キン香ヲ百具ト、香箱五ツト上セタソ。其ノ時ノ□斗ニ、其後ハ音信ナシソ。音信ヲスルトモ下ルマシイソ。鉢ヲ賣テ佗門ニ成タソト云タレハ、自其音信無キソ。サ有ルホトニ、其ノ後不弁ニ有タソ。倍當ニツマツタ時、天琢ニ談合シテ透陳香ヲ賣テ、ホイ當ヲ買タソ。五百入テ四貫ニ賣テ、其ノ後ハ一度モ合セソト云々。（15ウ）

（67）

〈養德和尚御違例大事ナル時、紹堅カナシク思テ、御前ニテ啼。和尚曰、古人モイワヌカ、人生七十故来マレナリト。吾カ七十ニ餘リテ死ル物ヲ啼ハ鈍ナヤツカナト也。師曰、吾ワ涙モロイホトニ、フヒンナル物ナントカナケカハ、吾ハ啼フスソ。大明眼ノ上ニモ有ル事ソ。大弘禅師ハ丈夫ナフトクレンナ人テ御入有レハコソ、左様ニハ被仰タレ。啼キケナク事ハ、イカナル人ノ上ニモ有ル事也。吾等ハ啼カウスカ、シラヌ物ワ命カ惜サニ啼クカト思ワウスルソ。

（68）

師曰、嶮峻ナカ師家ノ慈悲テ有ソ。古人モ云タソ。落草求

人不便己、本分ノ事孤負ノミニ、学者教眼瞎却云タソ。（16オ）

（69）

師曰、佛ノ涅槃像ニ色々ノ鬼神共カ有ルソ。其ハ鬼神ト云テ別ニ有ルテハ無ソ。佛ノ時代ト今ト近キ事テ有ルホトニ、今ト同物ソ。ヲソロシケナ貌ヲ露タハ、今ノ俗人共ノ様躰ハ、佛ノ時モ今モ只同事ソ。

（70）

佛云、此身イトツテ此身焼ク。喩ハ如壊車驢旧車懐新車亦生。師曰、世間ノ盲目共カ、色々ノ行ヲシテ身ヲ苦ルシムル、皆悉ク輪廻ノ種トナルソ、云々。

（71）

師夜話云、大慧曰、百廿斤擔却シテ擔子如シ過独木橋云タソ。ソレ様ニ古人モ云タホトニ、師家ニ成テ人ヲ接スル事ハ、一大事テ有ルソ。師家サヘ左様ニ有ルホトニ、学者ハ為己テ有ルホトニ、（16ウ）師家ノ云事ヲモ聞、如何様ナル奉公ヲセウスル事ソ。

（72）

又曰、無道心ナル学者ハ、吾會下ニハイヤテ有ルソ。幾タリ有テモ志カナケレハ、無曲ソ。一人ナリ共、有二志深切ナル物一ハ好シ。汾陽モ云タソ。納子世輩ト、上古ノ佛法繁昌シ盛ナル時タニモ、ソレ様ニ学者ハ多ナカンタ。殊ニ今時ハ有ルマシイ道理ソ。一人ナリ共、師家ノ用ニモ立、我カ身ヲモ立セウズト思フ物コソ重寶ナレ。師家ノ云事ヲモ不聞、我ヲモチ立フトモ不思物ハ、我カ會下ニハ総シテホシクモ無ソ。

（73）

桐ノ葉モ踏分ケ難クナリニケリ必ス人ヲ待ト無ケレト、式子内親王。師曰、此哥ノ意ハ、白楽天（ハク）（文殊）カ詩ノ心也。師云、春風桃李（17オ）花ノ開夜秋露梧桐葉ノ落時ト云詩ノ心ソ。喩ハ春ノ時分花ノ開ケタル時節ニ相逢テ語タソ。其ノ時ワ軈而参會申スト云テ離テ後、待テ共来ラサルソ。春過夏タケ秋キ来テ桐ノ葉カ落レ共、来ラサルソ、ト云心ニ作タソ。此哥ハ、此詩ヲシタ心ニ蹈テ詠シタソ。必スト云処、待タ処ハ聞ヘタソ。昔ノ人ノ様必ス人ヲハマタ子トモ、ト云心也。

千代野哥

トニカクニタクミシ桶ノソコヌケテ水ヲマラ子ハ月モヤトラス

挙此哥下語　代曰、聴雨閑更尽、開門落葉多。

天明哥（17ウ）

月ニ雲花ニ嵐ノ無ハコソヨシ其レトテモサモアラハアレ

挙此哥云、下語来。代曰、片雲如點大虚。

同辞世云

無米無銭、九十二年、末後簸糞、高澆梵天。

（74）

師曰、放参ト云事ハ、慈明ノ時参ヲユルサレタ事カ有タソ。其ノ時會下僧カイタツラニ居ヨリ經ヲ誦スト云テ、誦タニ依テ、夕去ノヲ放参ト云ソ。参禅ヲセウスル処ニハ、放参ナトハ、セウスル事テワ無也ト云々。

（75）

師曰、曹洞宗ノ有タカ、学者共ニ今時ノ学者ハ無道心ナソ。二祖ハ臂ヲサヘ断レタカ、今時ノ学者ハ、小指一ツ切ルマシ（18オ）イソ、云々。僧有リテ寮ヘ行テ、小指ヲ切テモテ出タソ。其レヲ見テ、其ノ心ヲ無道心ナト云タソ、ト云々。師曰、コレハヨク云タ事ソ、ガテコソ切タレ。志ヲハ無キソ。

（76）

大宗禅師話テ曰、希明ト云澤羅門徒ノ長老、餘所ヘ行テ帰リタソ。足ヲ濯テ足ノコイヲ請ニ悉クモツテ出タ時、弟子ノ有タカ、布ツキンヲヌイテ、足ヲノコウタソ。傍僧共カ、アマリニハナハタシイト云テ笑タソ。大宗禅師ノ云、此僧コソ真実ノ志ナレ。師家ノ氣取ニハ如此スルカ、真実ノ志テ有ルソ、ト云々。

（77）

師曰、趙州ノ処ヘ王ノ来テ、相看ノ時、趙州ハ縄床ノ上其マ、居テ、アイシラワレタソ。来日使臣家ヲ昨日相看申テ祝着ナト云テ来処ニ、趙州下縄床テ、イカニモ慇懃ニ有タソ。侍者ノ僧問曰、天子来ハ縄床不下、臣家来下縄床、何トシタル（18ウ）事ソ。趙州曰、第一頭人来、不下縄床シテ接之、第二頭人来、下縄床テ接之、第三頭人来、居山門外シテ接之、云タソ。為師家者、其人々ニ應シテ人ヲ接スルソ。

（78）

師曰、赤松方ノ物ニ小児ノ有リタカ、生レ落テヨリ軈而紫野ヘ行カウ々々ト云タル程ニ、六歳ノ年、上セタソ。徹翁ノ下有リテ、参禅ヲシタカツタ程ニ、参ヲサセラレタ処ニ、万法話、栢樹子、地獄ノ話ナントヲキラリ〳〵ト云テ出タソ。名ヲハ佛性房ト云タソ。人皆之ヲ大灯ノ再来ト云タソ。徹翁ノ云ク、國師ノヲソロシイ人テ、我カ修行ヲ見スル用ニ再来サセラレタソ、ト云々。此母カ、大灯國師ヲ夢ニ見テ、此子ヲ妊タト云タソ。此子ハ十七歳斗リニテ死タソ。師曰、徹翁ノ手段ヲ見度コソ御思（19オ）有ツラウ。其一念カ殘テ、チヤツト現成シテコソアルラウ。再来ト云テ、用所カ有レハ、来ルソ。雖然軈而又帰本分ニ程ニ、輪廻ト云物テハ無キ也。生死自由ノ用テ有ルソ。

（79）

大清之虎侍者、轉位之時、一僧云、虎斑易（ヤスク）見、人斑難見ト云タカ、是ハ人斑ハ易見候ヨ。侍者ニ代云、虎斑与人斑相去多少云スル。師前僧代云、果然釣得个語。又侍者代、叶々。拂身去。

（80）

天人五衰中ニ不樂本座ト云有、先天人ト云ハ、餘所ニハ無キソ。大裏仙洞宮□天上人ナントヤ、又出家ナントカ、天人テ有ルソ。不樂本坐ト云ハ、其道々ヲハタシナマイテ、公家ナントハ武士ノ道ヲタシナミ、僧ハ俗ノスル事ヲタシナミナントスル（19ウ）事也。只其レ々々ノ能ヲ可為カ道也。各々心得可キ事也云々。

（81）

師曰、人ノ能モ有リ、手ヲモ書キナントスル者ヲ、梅山シカリ、人ヲ述懐シスル事カ、一ノ比興ナ事也。我ハ物ヲモ書ス文字モナシスル程ニ、志シ深切ニシテ参禅ヲ本ニスヘキト思ヘ、人々事ノ欠ケハ興翠キナントスヘキト思テ、旦々ニ参禅ヲセヨ。是カ肝要可為キソ。参禅次ニ云々。

（82）

佛國哥ニ、ノリエテモ心ユルスナ桜花サソウ嵐ノアリモコソスレ、見解ノ人ニヲクルト云題ノ哥也。

（83）

臨済ノ吹毛用了急須磨ト云タモ同意也。又ハ大灯ノ截断佛祖、吹毛常磨ト云モ同。

（84）

〈大慧云、生死ノ二字ヲ鼻端ニソクイツケニシテヲケト云タソ。

（85）

〈又言外ハ、一日三度死テ見ト云ハレタソ、ト云々。

（86）

〈師曰、大黒ハ、天竺ノ佛ノ時ノ飯頭テ有リタソ。

（87）

大唐ノ國性寺ハ、佛鑑ト云人ソ。其ノ時ノ力者ハカン山十徳テ有ツタソ。行跡ハ平生水棚ノ先ノ飯ツフヲ拾テ喫テ過日テ有ルソ。又竹筒ニ飯ツフヲ拾入テ、十徳ニ与タソ。是様ナ者ナレ共、今マテ人ノ知タハ奇特ノ事也。

（88）

古人云、衆肉雖喫千斤、莫喫青葱一束ト云タソ。佛ノ五辛ナントヲ戒ラレタハ、人ヲワツラハスル程ニ、戒シメタソ。

（20ウ）

（89）

我カ法ハ障子ノ引手峯ノ松火打袋ニ鶯ノ聲　大灯之哥、カヽル時イカニ命ノ惜カラン身ハ無物ト兼テ不知ハ、　辞世。万法ヲ野邊ノケムリニ焼捨テ是ソマコトノトモタラヌ者、盡居士辞世。師聴テ曰、尽居士カ哥テハ有マイソ。我ナラハカウヨマウスト、万法ノ野邊ノケムリニ焼捨ヌサキモマコトノトモタラヌ者。　カウコソヨマウスレ。

此ホトハ莫妄想ヲトリイレシヘンナシ袋イマ破レケリ（21オ）

右正宗禅師墨痕
享保二丁酉年七日晦日

紹云證焉